

かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。



【☆☆パーキンソン病②☆☆】

パーキンソン病の治療薬には、多くの種類があります。もっともスタンダードな治療法は、レボドパと呼ばれる、ドパミンを直接補充する治療になります。レボドパへの反応があるかないかも、パーキンソン病の診断のうえで重要なサインになります。パーキンソン病の方々は原則、抗パーキンソン病薬にとってもよい反応を示します。レボドパ以外にも、ドパミン受容体刺激薬、MAOB阻害剤、COMT阻害剤、てんかん薬の一つでもあるゾニザミド、抗コリン薬といった薬剤を用いて加療を行います。最初の10年間程度はこのような内服薬で対応します。経過とともに薬剤による副作用が目立つようになったり、1日を良い状態で維持できなくなった方には、外科的な手段でリードを入れ、電気刺激による改善を促す脳深部刺激療法や、胃瘻からゲル状のレボドパを持続投与するデュオドーパという方法もあります。新しいデバイス装置が次々と発売されてきています。神経内科疾患のなかでは、もっとも治療法が開発されている領域になります。当院では、主に外来診療を中心に内服調整を行います。パーキンソン病と言われた、セカンドオピニオンを受けたい、在宅診療を受けたい、そのようなご要望がございましたら、診療経験豊富な専門医が対応させていただきます。

〔西岡健弥医師〕

編集後記～スタッフのつばやき～

「ノーマスク観戦」が話題のサッカーワールドカップ開催国カタールでのコロナ感染状況について、少し調べてみました。外務省の安全渡航レベルは「1」で、「十分注意」とあります。また、ワクチン3回接種証明か出国72時間以内の陰性証明、IDカードの申請、専用アプリのインストール等が必要です。マスクの是非が問われていますが、日本人の場合、「人に迷惑を掛けないようにしよう」という道徳的なものが大きいと思います。その点で「まず自分が楽しまなくては」という外国人の考えとは、少し異なる気がします。(K)

医療法人財団ファミーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町1-41-1 桜ビル2階

① 外来：心療内科＝大川昭宏院長、永井斐子副院長
内科＝駒形清則医師（第2・第4火曜のみ）

②訪問診療

内科＝駒形清則医師

駒形明紀医師(非常勤)

精神科＝米谷充医師(非常勤)

神経内科＝今井壽正医師、西岡健弥医師(非常勤)

※詳しくはホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせ下さい。

電話 03-3627-0233